

～目的と手段とを適切に紐づけ、「デジタル」と「アナログ」の長所を最大限生かすために～

改正省エネ法も見据えた

遠隔監視・自動化等、「次世代型エネルギー管理」への対応も視野に入れて――

計測と見える化の手法

「省エネ法：工場等判断基準」では、エネルギー管理のための計測（及び記録）が求められています。その意図を「蓄積されたデータからエネルギー使用の現状を把握し、ムリ・ムラ・ムダがないか評価し、改善（最適化）するため」と定義するならば、そのためのデータの把握が必要不可欠であることは明白です。すなわち、省エネという「目的」の実現には、そのデータから改善活動のネタが抽出できるのか、当該データの分析等を通じ、今取り組んでいる改善活動を適切に評価できるかなど、「手段」としての計測の価値を少しでも高める意識が必要です。

本講座では、斯様な視点——「**使える計測（及び記録）で現場を見える化！**」をキーワードに、省エネ推進に必要な変数、計測頻度と経済性、計測技術や計測点、そして集計・整理・分析の着眼点などを、「デジタル化」といった昨今のトレンド・事例も意識し、わかりやすく解説します。 講師：（一財）省エネルギーセンター 省エネ技術本部 技術支援センター 技術普及部 マネージャー 鈴木 伸隆

● 主なカリキュラム ●

講義時間は約4時間38分です。

視聴期限は1ヵ月で、その間何度でもご視聴いただけます。

0. 改正省エネ法をも見据えた基本的視点

90分

●エネルギー消費の「根本的構造」を考える ●改正省エネ法施行と計測・見える化 ●新たな「外的要因」の認識 ●非化石エネルギーの管理と計測

1. 計測に着目したエネルギー管理の基礎

89分

●計測の実務：「これまで」 ●計測の実務：「これから」
●計測の実務：「これから」

2. 計測の要否の見極め方

61分

●そもそも論：「計測」の要否に関する配慮事項（例） ●省エネ推進に必要な「デジタルデータ」取得法 ●「計測が不可欠な設備」を考える

3. 省エネのための計測及び記録の技術

21分

●絶対に忘れてはいけないコト ●計測データの「目視」
●電力計測データのフル活用

4. 計測データの見える化事例

17分

●「影響別」見える化 ●「見せる化」の工夫 ●「見てるか？」

● 受講要領 ●

●**受講条件**：ZOOMによる動画配信講座です。インターネット環境の整ったパソコンやタブレット等をご用意ください。必ず事前に**右記の試聴用動画**が試聴できる事をご確認の上、お申し込み下さい。なお、Web会議・セミナーのアプリ等のダウンロードの必要はございません。

●**受講料**（税込）：
— 一般：27,500円
賛助会員：22,000円

●**申込方法**：右の二次元コードをクリックし、表示された申し込みフォーム（Googleフォーム）よりお申し込みください。もしくは右の二次元コードをスマホなどで読み込んで申し込みフォームを表示させて下さい。

●**注意事項**：お申し込み後、自動返信いたします「お申し込み確認メール」にお振込み指定口座を記載してご置きます。口座へのご入金を確認させていただきましたら、パワーポイント画面集（印刷物）の郵送、及び録画配信のご案内をメールでお送りします。（特にご要望のない限り、請求書は送付いたしません。

なお、動画のご視聴はお申し込みいただいた方に限らせていただきます。

受講料割引特典がご利用いただける**賛助会員へのご入会**をご検討下さい。

⇒ <https://www.eccj.or.jp/member/index.php>

※ 同名の講座を各支部で開催しておりますが、内容は同じです。



必ず事前にZOOMの試聴を行って下さい。

試聴用のパスコードはtest#2023です。



お申し込みはこちらの二次元バーコードをスマホ等で読み込むかクリック(タップ)して下さい



講座の紹介動画をご覧ください！

